第３学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　３年１組教室　指導者　村上　茉優

１　主題名　　よく考えて行動する（A節度、節制）

（教材名：ぼくを動かすコントローラー　出典：生きる力３【日本文教出版】）

２　目　標

自分のことを自分できちんとコントロールするとはどういうことかに気付き、自ら考えて度を過ごさない節度のある生活をしようとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「節度・節制」は、自分の欲求や感情に流されることなく、自分の生活を振り返り、心身の健康や安全、これからの生活のことを考えながら、自分の行動を適切に調整していこうとする考え方である。特に中学年では、生活の中で「もっとやりたい」「まだ遊びたい」などの思いをもつ一方で、時間や体調、周囲への影響などを自分でしっかりと考えて行動することが求められる。自分の行動を決めるのは他者ではなく自分自身であることに気付き、目の前の欲求だけではなくその後の自分の生活や気持ちにも目を向けながら、自分で考え、よりよい行動を選択しようとする態度を育てたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、基本的な生活習慣が身に付き、自分でできることが増えている一方で、自分の興味や欲求を優先してしまい、生活の中で適切に気持ちを切り替えることが難しい姿も見られる。特に、ゲームや遊びなどの「楽しいこと」は「もう少し続けたい」という思いが強くなりやすく、時間やその後の生活を考えて行動を調整することに課題がある。また、「おうちの人に言われたからやめる」「先生に言われたからやめる」というように、周囲の働きかけによって行動を調整する経験も多いと考えられる。本教材を通して、「自分で自分を動かす」とは、やりたい気持ちやその場の感情のまま行動するのではなく、その後のことや周りの人への影響を考えて、自分でよりよい行動を選ぶことであることを考えられるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【1時間完了】

・ゲームや遊びなど、「もっとやりたい」という経験は子どもたちにも身近であり、自分自身の生活を振り返りながら考えることができる。
・「やりたいことを我慢する」のではなく、自分の気持ちを受け止めながら、健康や生活、先のことを考えて行動を調整することの大切さに気付くことができる。
・「自分を動かしているのはだれか」という視点から、周囲に言われて行動するのではなく自分で考え、自分で自分の行動を調整することについて考えを深められる。

〈こんな手だてで〉

・自分の生活と教材をつなげて考えるために、「もっとやりたい」と思う生活経験を想起できるようにする。
・「自分をコントロールすること＝我慢」と捉えることだけで終わらないようにするために「やりたい」という気持ちも大切にしながら、よりよい生活のために自分で行動することについて考えるよう促す。
・自分の生活を振り返る場を設け、学んだことをこれからの生活に生かそうとする思いをもつことができるように焦点化する。

【学習後の児童に期待する姿】

・自分の「もっとやりたい」という気持ちと向き合いながら、これからの生活や周囲への影響を考えて自分の行動を調整し、よりよい生活を送ろうとする思いを高めている。

４　本時の指導

（1）指導の構想

導入では、児童に「つい夢中になってやり過ぎてしまうこと」を問いかけ、ゲームや動画視聴といった身近な体験を想起できるようにする。その際の「止めたいけれど止められない」という葛藤に共感しつつ問題意識を高め、教材への関心を高める。その上で、「ついやり過ぎてしまわないためには、どんな考えが大切だろう」という本時のめあてを設定・確認する。

展開では、「大丈夫」と言って家を飛び出した時や、おばあちゃんが先生に頭を下げている姿を見た時のけんたの気持ちを考えられるようにする。自分のやりたいことや勝手な判断を優先した行動が、家族など周囲の人に不安や迷惑を与えていたことに焦点を当て、自身の行動が周囲に及ぼす影響を客観的に見つめ直す機会とする。「けんたを動かすコントローラーはけんたが握っている」という言葉について、けんたがどのように受け止めたかを話し合う。自分の行動を決めるのは自分自身であり、やりたい気持ちのまま動くのではなく、自分で判断してブレーキをかけることが、気持ちのよい生活につながることを捉えられるようにする。さらに、「めあて」に戻り、授業のはじめにもっていた考えと比較することで、自分の考えの広がりや深まりを実感できるようにする。

終末では、授業を通した自身の学びを振り返る。「もっとやりたい」という素直な思いを受け止めつつも、今後の生活や心身の状態を考慮して自分の行動を主体的に調整し、よりよい生活を送ろうとする実践意欲や態度を育みたい。

（2）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　つい夢中になってしまうことについて考える。（5） 2　めあてを確認する。（3）	ついついやり過ぎてしまうことはありませんか			
	・ゲーム ・YouTube ・お菓子	・楽しいからやめられなくて、遊びすぎちゃう。	・寝る時間になったからやめなきゃいけないことは分かっているけど、ゲームをやりすぎちゃう。	※児童が自分の生活を振り返り、本時の課題を自分事として捉えることができるようにするために、ついついやり過ぎてしまう身近な経験と結び付ける。
	めあて　ついやり過ぎてしまわないために、どんな考えが大切だろう			
	・我慢する。	・注意されたらやめる。	・時間を決めてやる。	
3　教材文を読む。（3） 4　家を飛び出したけんたの気持ちについて考える。（5）	「だいじょうぶ」と言って家を飛び出したときのけんたはどんな気持ちだったかな			
	・お腹すいてないから大丈夫。	・そんなに心配しなくてもいいのに。	・学校に遅れちゃうから、それどころではないんだ。 ・一日ぐらい朝ごはん食べなくたって平気だよ。	※けんたの行動の背景にある気持ちに目を向けるために、「どうして『だいじょうぶ』と言ったのか」と問い返す。
5　おばあちゃんが先生に頭を下げている姿を見たけんたの気持ちを考える。（5）	おばあちゃんが病院の先生に頭を下げている姿を見たけんたはどんな気持ちだったかな			
	・早く寝ればよかった。 ・おばあちゃんの言うことを聞いておけばよかったな。	・悪いのはぼくなのに、おばあちゃんに悪いことしたな。 ・夜遅くにおやつを食べずに、早く寝ればよかったな。	・自分がやりたいことばかり考えていたな。 ・自分だけでなく周りの人も困らせてしまった。	※自分の行動が周囲に与える影響を実感できるようにするために、おばあちゃんが謝っている場面の挿絵を提示する。
6　自分を動かすコントローラーについて考える。（12）	「けんたくんを動かすコントローラーはけんたくんがにぎっている」と言われて、 けんたはどんなことを考えたでしょう			
	・夜更かししたから、朝ごはんが食べられなかったんだ。	・自分のことは自分で考えなければいけないな。 ・自分を動かしているのは自分だな。だからしっかりしないとな。	・やりたい気持ちがあっても、やめたほうがいいときは、自分で止めることが大切だな。 ・自分で行動できたら、自分も家族も心配にならない。 ・何でも我慢することではなくて、自分にとってよいことを選ぶことが大切だな。	※ペアで互いの考えを聴き合い、自分の考えと比べることで、新たな考えに気付くことができるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「自分で考える」 「我慢する」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「自分で考えるってどんなことを考えて決めることかな」 「自分でコントロールしていることは、我慢することなのかな」
7　めあてに戻り、自分の考えの広がりを確認する。（7）	ついやり過ぎてしまわないためには、どんな考えが大切だろう			
	・自分で考えて行動をする。	・家族や周りの人の気持ちも考えて、自分の行動を考える。	・自分がよりよい生活を送るために、自分の行動は自分でよく考えて行動する。	※授業前の自分の考えとどんな広がりや深まりが見られたか確認しながら考えられるようにする。
8　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返ろう			
	・自分で自分をコントロールしていきたい。	・やっていいことと悪いことを自分でしっかり考えてから行動できるようにしたい。	・自分がよりよい生活を送ることができるように、やる前に自分でしっかりと判断をすることができるようになりたい。	※振り返りを書くことが難しい児童には、板書に書かれていることで、一番心に残っていることを記述できるように支援する。

（4）評　価

・自分の「もっとやりたい」という気持ちと向き合いながら、これからの生活や周囲への影響を考えて自分の行動を調整し、よりよい生活を送ろうとする思いを表現しようとしているか。　（発言・ノート）

第３学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　３年２組教室　指導者　荒井　万友美

１　主題名　　バスの中で（B親切、思いやり）

（教材名：バスの中で　　出典：生きる力３【日本文教出版】）

２　目　標

困っている人がいたら、相手の気持ちを考え、「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行うことが思いやりであると理解し、進んで親切にしようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「親切、思いやり」とは、困っている人の立場に立って気持ちを想像し、「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行おうとする心のことである。相手を気にかけ、その人のために何ができるかを考えることは、温かな人間関係を築くことにつながる。本時では、困っているおばあさんを見て席を譲ろうとする「わたし」の姿を通して、親切にするときにはどのような考えが大切なのかについて考え、相手の気持ちを想像しながら行動しようとする心を育てたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童たちは、級友と元気に遊んだり活動したりすることが大好きで、自分の考えをはっきり言える児童もいれば、周りの様子を見ながら行動しようとする児童もいる。一方で場面によっては、自分の「こうしたい」という気持ちを大切にするあまり、周りの級友の様子や気持ちにまで、十分に目を向けることが難しいこともある。困っていそうな級友や、手助けを必要としていそうな人に気付いても、「声をかけたらどう思われるかな」「ちょっとはずかしいな」と感じて一歩を踏み出すことを迷ってしまう様子が見られる。しかし、これまでの生活を振り返ると、誰かに親切にしてもらったことをうれしそうに話したり、自分が勇気を出して親切にできたときに満足そうな表情を見せたりする児童も多い。こうした姿から児童は本来、周りの人の気持ちを思いやり、「誰かの役に立てたらうれしい」という思いを心の中にもっていると考えられ、本時においてはどんどん引き出したい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は、困っている人に「親切にしたい」気持ちと、「恥ずかしい・どう思われるかな」という迷いの気持ちがリアルに描かれている。
・主人公は、相手の気持ちを自分に置き換えて想像し、「もし自分だったらこうしてほしい」と考えることで一歩踏み出して親切な行動を選んでいる。
・自分の迷いやためらいも含めて見つめながら、思いやりの心が「行動」に変わっていく過程を自分事として考えやすい教材になっている。

〈こんな手だてで〉

・導入では、アンケートをもとに自分たちの生活を振り返り、「親切にしたい気持ち」と「恥ずかしさや迷い」の経験を共有することで自分事として考えられるようにする。
・「わたし」の心の葛藤を追うことを通して、相手の気持ちを考え「自分だったらこうしてほしい」と考えることが、親切の心につながることに気付くようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・思いやりとは、困っている人の気持ちを想像し「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行おうとする心であると理解し、恥ずかしさや不安からためらいながらも乗り越えて進んで親切にしようとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

導入では、事前アンケートをもとに、困っている人を見たときの自分たちの気持ちを振り返る。「助けたい」「声をかけたい」という思いがある一方で、「はずかしい」「どう思われるかな」などの迷う気持ちがあることを共有し、自分たちの心の中にもさまざまな思いがあることに気付かせる。そして、「助けたい」と思いながらも迷ってしまうとき、どのような考えが親切な行動につながるのかという問題意識をもたせ、「親切にするとき、どんな考えが大切だろう」という本時のめあてにつなげる。

展開では、教材を通して、席をゆずろうと思いながらもなかなか声をかけられない「わたし」の心の中にある、「助けたい気持ち」と「はずかしい気持ち」の葛藤に着目させる。その後ハートのバロメーターを活用しながら心の変化を比較し、おばあさんへの思いが大きくなったことを捉えられるようにする。さらに、おばあさんのことを考えていた「わたし」の思いを追うことで、「自分だったらどうしてほしいか」という考えに気付き、親切な行動を支える考えについて考えられるようにする。この学習を通して、思いやりとは、困っている人の気持ちを想像し、「もし自分だったらこうしてほしい」と思うことを行おうとする心であることをみんなで確認したい。

終末では、学習を振り返り困っている人の気持ちになり、進んで親切にしていこうとする意欲を高めていきたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1 「こんなときあなたはどうする」を共有する。（3）	困っている人を見たときにあなたはどうしますか。			
	・助けてあげたい	・手伝いたいけど迷う	・助けたいと思うけど、はずかしい	※児童たちの心の中に複数の気持ちが同時にあることを気付けるようにするために、事前にアンケートを取り、提示する。
2 めあてを確認する。（2）	めあて　親切にするとき、どんな考えが大切だろう			
	・やさしくする	・相手のことを考える	・相手の気持ちを考える	
3 教材文を読む。（5）	せきをゆずろうと思ってもなかなか声をかけられなかった「わたし」は心の中でどんなことを思っていたのかな			
4 「わたし」の気持ちについて考える。（10）	・座らせてあげたい ・つかれたな ・すわりたいな	・座らせてあげたい気持ちとはずかしい気持ちの、どちらもある ・だれがゆずってくれないかな ・声をかけてほしい	・おばあさんにゆずりたい気持ちとはずかしい気持ちのどちらを選ぶか心の中で真剣にたたかっていた ・声をかけてくれるとうれしい	※ハートのバロメーターを用いて「わたし」の心の中を可視化する。ここでは、「相手を思う気持ち」と「自分自身に対する気持ち」の両方があり、心の中で葛藤していることをとらえられるようにする。
5 決心したときの「わたし」の思いについて考える。（15）	心の中の二人の「わたし」が争っていたのに、最後に「ゆずろう」と決めたのは、どんな思いがあったからだろう			
	・おばあさんが困っていた ・立っていて大変そう ・かわいそう ・疲れているな ・困っているな	・おばあさんのことが気になったから ・助けてあげたいと思ったから ・楽にしてあげたい ・座らせてあげた	・おばあさんのことばかり考えていた ・おばあさんへの思いでいっぱい ・自分のことよりおばあさんのことが気になった ・自分がおばあさんなら座りたい ・自分がおばあさんなら声をかけてほしい	※児童の発言を問い返したり関連付けたりしながら考えを深められるようにする。 ※ハートのバロメーターを用いる。主発問前と比べ、「「わたし」の心の中はどのように変わったのかな」と問い返すことで、おばあさんを思う気持ちが大きくなったことに気付くようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「おばあさんへの思いでいっぱいだった」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「おばあさんへの思いでいっぱいってどんなことを考えていたのかな」
6 親切について考える。（5）	親切にするとき、心の中にはどんな思いがあるのかな			
	・困っている人を助けること ・やさしくすること	・相手の気持ちを考えること ・困っている人のことを考えること ・相手のことを考えて行動すること	・自分だったらどうしてほしいか考えること ・相手の気持ちを考えて、自分だったらこうしてほしいと思うことをする	※めあてに戻ることで、この一時間で「親切」に対する考えがどのように深まったのか感じられるようにする。
7 振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・困っている人がいたら助けたい	・困っている人を見たら、相手の気持ちを考えて、動きたい	・困っている人を見たとき、自分の心の中でたたかうことがあっても困っている人のうれしい気持ちを選んで、自分からそっと親切にしたい	※この授業で学んだことを自分の言葉で記述する。

（4）評　価

・困っている人の気持ちを想像し、「自分だったらこうしてほしい」という視点から、親切について考えを深めることができたか。（発言・ワークシート）

第４学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　４年１組教室　指導者　天野　幹康

１　主題名　　正直はだれのため（A正直、誠実）

（教材名：新次のしょうぎ　出典：生きる力４【日本文教出版】）

２　目　標

嘘やごまかしは、相手だけでなく「本当は正直でいたい自分」の心もだましてしまうことに気付き、嘘つきの心やごまかそうとする心に負けず、自分の正直な心を大切に行動しようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「誠実・正直」とは、単に嘘やごまかしをしないことではなく、自分の過ちや弱さを素直に認め、自分の正直な心を大切に生きようとすることである。人は失敗を隠したり、その場を取り繕ったりしたくなることがあるが、そのような行動は相手の信頼を損なうだけでなく、本当は正直でありたいと願う自分自身の心にも偽ることになり、後悔や自責の念を生む。一方、自分の過ちを受け止め、嘘つきの心やごまかそうとする心に負けず自分の正直な心を大切にすることは、自分らしく明るく生活することや、自分への誇りや自信につながる。自分の心の中にある「正直でいたい気持ち」と「ごまかしたい気持ち」との葛藤に気付き、自分の心に正直に行動しようとする態度を育てていきたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童たちは、男女の仲がよく、日ごろから互いに関わり合いながら学校生活を送っている。また、「ありがとう」や「ごめんなさい」を素直に伝えられる児童も多く、温かい人間関係が築かれている。一方で、遊びの中では、自分が勝ちたいという気持ちからルールを破ってしまったり、忘れ物をしても正直に申し出ず黙ってしまったりする姿が見られる。また、人の物を隠しても自分がやったことを認めないなど、自分にとって都合が悪い場面では事実をごまかそうとすることもある。本教材を通して、嘘やごまかしは相手だけでなく、本当は正直でいたい自分自身の心にも影響を与えることに気付き、嘘つきの心やごまかそうとする心に負けず、自分の正直な心を大切にして行動しようとする思いを育てたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材では、「勝ちたい気持ち」と「正直でいたい気持ち」がぶつかり、「いけないと分かっているけど、やってしまいそうになる」新次の心の揺れについて考えることで、嘘やごまかしは、自分自身の心の中をイメージして考えることができる。
・「傘を持つ手に涙がこぼれた」新次の心の内側を考えることで、恥ずかしさや後悔、自責の念、おじさんへの申し訳なさといった、いろいろな感情を感じることができる。

〈こんな手だてで〉

・「勝ちたい気持ち」と「正直でいたい気持ち」を対比した板書を書くことで、ずるいことをしてしまった心の中には、「正直でいたい気持ち」をもった自分もいることを感じ取ることができるようにする。
・「傘を持つ手に涙がこぼれた」場面では、児童の意見を「自分に対して」、「おじさんに対して」、「行動そのもの」に分けて板書することで、複雑な新次の暗い感情を感じ取ることができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・正直でいることは、相手だけでなく、自分の中の嘘つきの心に負けず、正直な心も大切にすることにつながっていることに気付き、嘘をついたりごまかしたりせず、自分の正直な心を大切に行動しようとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

導入では、児童がこれまでに嘘やごまかしをした経験を想起し、そのときの気持ちを交流する。事前アンケートを基に、多様な感じ方を共有することで、自分事として教材に向き合えるようにする。その後、めあてを確認し、「正直であることはどうして大切なのだろう」という問いに対する現時点での考えをもつことができるようにする。

展開では、まずは、「ずるしちゃえ」と思った新次の心に着目するようにする。「勝ちたい」「誰も見ていないから大丈夫」といった思いと、「正直でいたい」という思いを対比しながら整理することで、誰の心にも弱い心と正直でいたい心が存在することに気付けるようにする。

中心発問では、勝ったにもかかわらず笑えなかった理由や、傘を持つ手に涙がこぼれた場面について話し合うことで新次が苦しんでいたのは負けたことではなく、「正直でいたい自分に背いてしまった自分自身の情けなさ」であることに迫る。そして、嘘やごまかしは相手を傷つけたり、信用を失ったりするだけでなく、本当は正直でいたい自分自身の心も苦しめてしまうことに気付くことができるようにする。

その後、導入で設定した「正直であることはどうして大切なのだろう」という問いに立ち返り、「ねらい」に迫りたい。正直であることは、相手のためだけではなく、自分自身を大切にし、自分らしく明るく生活することにもつながることを確認し、自分の心の中の正直な心を大切に行動しようとする思いを育てていきたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　嘘やごまかしをしてしまったときの気持ちを共有する。（3）	本当のことを言わなかったり、少しごまかしたりしたとき、どんな気持ちになりましたか			
	・あまり気にならなかった。	・少しもやもやした。	・これでいいのかなと思った。	※嘘やごまかしをしたとき、さまざまなネガティブな気持ちがあることに気付けるよう、事前にアンケートを取り、共有する。
2　めあてを確認する。（3）	めあて　正直であることはどうして大切なのだろう			
	・正直でないと怒られる。	・嘘をつくと自分がもやもやするから。	・正直でないと後悔するから。	
3　教材文を読む。（4）	将棋の駒を動かそうと思いついたとき、心の中はどう思っていたのかな			
4　新次の中の弱い心と強い心について考える。（5）	・「ずるしちゃえ」と思っている。	・「誰も見ていないから大丈夫」と思っている。	・「絶対に勝ちたい」と思っている。	※新次の弱い心と強い心を対比した板書にすることで、ずるいことをしてしまった心の中には、「正直でいたい気持ち」をもった自分もいることを感じ取ることができるようにする。
	・「ばれたら怖い」と思っている。	・「申し訳ないな」と思っている。	・「正直でいたい」と思っている。	
5　弱い心を選んだことで、新次自身の心が暗くなる様子を捉える。（5）	勝ったはずなのに、どうして新次は心から笑えなかったんだろう			
	・ばれているかもしれないと怖かったから。	・ずるをして勝ってもうれしくなかったから。	・ついずるをしてしまった自分のことが嫌だったから。	※挿絵の表情の変化を示すことで、大きく新次の気持ちも変化していることを感じ取れるようにする。
6　嘘やごまかしは、他者だけでなく、本当は正直でいたい自分をごまかしていることを考える。（20）	傘を持つ手に涙がこぼれたのは、どんな思いがこみ上げてきたからかな			
	・もやもやした気持ちがあったと思う。	・おじさんに申し訳ないことをしてしまって、後悔の思い。	・本当はずるをしたかったわけではないという思い。	※児童の意見を「自分に対して」、「おじさんに対して」に分けて板書することで、さまざまな理由で後悔していることを感じ取れるようにする。
	・ずるをしない自分。 ・悪いことをしない自分。	・ずるをしないで勝とうと頑張る自分。 ・後で後悔しない自分。	・自分の心に正直な自分。 ・自分を大切にできる自分。	※【キーワードとなる児童の発言】「本当はずるいことをしたくない」 【キーワードに対する切り返しの発問】「新次は、本当はどんな自分でいたかったのかな？」
	正直であることはどうして大切なのだろう			
	・もやもやがすっきりする。	・相手の気持ちを大切にできるところだと思う。	・相手のことだけでなく、嘘やごまかしをしたくない自分を大切にできる。	※めあてに戻ることで、この一時間で「正直であることはどうして大切なのか」に対する考えが、広がったり深まったりしたことを感じ取れるようにする。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新たに学んだことを振り返りましょう			
	・もやもやしたくないから、正直に生きていきたい。	・相手を傷つけないために、正直に生きていきたい。	・嘘やずるいことをすると、相手だけでなく、自分も裏切ってしまうから正直に生きていきたい。	※授業で話し合ったことや板書を参考に一番心に残ったことを振り返るよう確認する。

（4）評　価

・正直であることは相手のためだけでなく、自分自身の正直な心を大切にすることにつながることなどについて考え、自分の心に正直に行動していこうとする考えを表現しようとしているか。　（発言・ワークシート）

第４学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　４年２組教室　指導者　味岡　里紗

１　主題名　　少しくらいなら（C規則の尊重）

（教材名：雨ととの様　出典：生きる力４【日本文教出版】）

２　目　標

きまりをきちんと守る姿勢がよりよい集団や社会をつくることに気付き、約束やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

集団生活や社会生活では、約束やきまりを守ることが求められており、一人一人が守っていくことで、集団や社会が成り立っている。約束や社会のきまり、公共のものや場所の大切さについては、「守るとよい気持ちになる」という結果だけでなく、誰もが同じように思いや願いをかなえられるようにするためにあるという視点から考えることが大切である。一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共のものや場所との関わりについて考える機会は多くない。しかし、集団生活をよりよくしていくためには、相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くとともに、集団の向上のために必要な約束やきまりについて十分に考えることが大切である。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、学校や社会にはさまざまな約束やきまりがあり、それらを守ることが大切であると理解している。しかし、「相手を怒らせたくない」「仲間外れにされたくない」など、自分が困った状況にならないために約束やきまりを守ろうとする傾向があり、その意義や大切さを十分に理解するまでには至っていない。また、「その場に応じて都合よくきまりを変えても、大きな問題が起こらなければかまわない」と捉えている児童も少なくない。本教材を通して、自分にもそのような考えがあることに気付き、約束やきまりを守ることは、個人や集団が安心して生活するために欠くことのできないものであることを理解できるようにしたい。そして、約束やきまりは誰もが同じように守るべきものであり、きまりはみんなで支えていくものであることについて考えを深められるようにしたい。

<教材のこんな魅力>【１時間完了】

・本教材では、家来と門番、殿様のそれぞれの立場の違いがはっきりしているため、きまりについての思いや考えの違いなどを比べて考えやすい教材である。
・「本当はだめだと分かっているけど、今だけなら…少しだけなら…」というような児童の日常の感覚に近い心の動きについて、取り出して考え合うことができる。
・身分や力の差があっても、約束や社会のきまりを「誰もが同じように守るべきもの」だということを、自然に感じ取ることのできる構成になっている。

<こんな手だてで>

・それぞれの立場の考えを、対比的に板書することで、登場人物それぞれの立場、きまりに対する思いや考えを捉えられるようにする。
・きまりが何のためにあるのか、誰のためにあるのかという観点を与えながら補助発問を行うことで、「きまりはみんなのためにあり、少しくらいいいかと変えていいものではない」と気付くことができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・きまりを守る姿勢がよりよい集団や社会をつくることにつながることや、自分自身も社会の一員としてきまりを守る立場にあることに気付き、進んで約束やきまりを守ろうとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず事前に実施したアンケート「きまりに対して、どんな思いをもっていますか」の結果を掲示する。学校生活の中にも多く存在するきまりに対する、児童の素直な思いを共有することで、本時の学習への導入を図る。

展開では、たぎわ門を開けさせようとする家来と、開けようとしない門番、それぞれの立場や思いについて考える。「たぎわ門は大切なときにしか通らない」というきまりよりも、「雨だから近道をしたい」という思いを優先しようとする家来の気持ちを考えることで、児童たちの日常生活にもある「少しくらいならいい」「今だけなら大丈夫」という、きまりを守り切れない人間の弱さに目を向けられるようにする。一方で、相手が殿様という身分の高い人物であっても、きまりを守ることを貫こうとする門番の思いを考えることで、約束や社会のきまりは、立場や力の違いに関わらず、誰もが等しく守るべきものであることに気付くきっかけとなるようにする。

中心発問では、家来と門番のやり取りを見て、にっこりとうなずいた殿様が気付いたことについて話し合う。きまりを定めた殿様自身が率先してきまりを守ろうとする姿から、きまりは一部の人だけが守るものではなく、社会で生活する誰もが守るべきものであることに気付けるようにする。また、一人一人がきまりを守ることが、自分だけでなく周りの人々の安心や安全な生活につながることについても考えられるようにする。

そして、導入で提示したアンケート「きまりに対して、どんな思いをもっていますか」について振り返る。学習前の考えと学習後の考えを比べながら、自分も社会の一員としてきまりを守る立場にあることや、きまりを守ることが自分や周りの人が気持ちよく、安心して生活できる社会につながることに気付けるようにする。終末では、授業を振り返り、きまりの意義について再度確認したい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、ホワイトボード、アンケート結果の拡大掲示

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　身の回りに存在するきまりについて振り返る。（3）	きまりに対して、どんな思いをもっていますか			
	・守るのは面倒。 ・先生に怒られるから守る。	・きまりがなかったら、学校がごちゃごちゃになりそう。	・みんなが気持ちよく過ごすために必要だから守りたい。	※事前アンケートの結果を提示し、身近にあるきまりとその理由を振り返ることで、価値への導入を図る。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　きまりを守るときに大切な思いは何だろう			
	・先生に怒られる前に守った方がいい。	・誰かにけがをさせないために守る。	・どんなときでもきちんと守ることが大切。	
3　教材文を読む。（3） 4　たぎわ門を開けさせようとした家来と、たぎわ門を開けようとしない門番のそれぞれの思いを考える。（13）	「門を開けっ」と言った家来は、どんなことを考えていたのかな			
	・門番のくせに生意気だ。こちらには殿様がいるんだぞ。 ・殿様が濡れないようにするために門を開けろ。	・急いで城に戻らないと殿様が濡れてしまって大変だ。 ・今だけ門を開けてくれたらそれでいい。	・少しくらいいいじゃないか。 ・そんなつまらないきまりを守るよりも、殿様が濡れないことの方が大事だ。	※通ってはいけないきまりがある「たぎわ門」を通ろうとする家来の気持ちを考えることで、「少しくらいなら…」という、誰もがもち得る、きまりを守り切れない人間の弱さに目を向けられるようにする。
	門を開けようとしない門番は、どんなことを考えていたのかな			
	・「開けろ」と言われても、きまりなのだから開けることはできない。	・殿様が通るのを許してしまったら、みんなもきまりを守らなくなってしまう。	・殿様であっても、誰であっても、この「たぎわ門」を通ることはできない。	※きまりを守り通そうとする門番の立場を考えることで、どの立場であってもきまりを守ることの大切さに気付くための足がかりとする。
5　家来と門番のやり取りを見ていた殿様の思いについて考える。（20）	びしょ濡れになりながらも、にっこりとうなずいた殿様はどんなことに気付いたのかな			
	・わたしが間違っていたのだな。 ・開けなかった門番は、自分の役目を一生懸命守っている。	・自分が作ったきまりなのに、自分が破ってしまうのはいけない。 ・みんなもきまりを守らなくなる。	・「たぎわ門」を通ったら、きまりの意味がなくなる。 ・どうしてきまりがあるのか考えなくてはならなかった。	※びしょ濡れになりながらも、晴れやかな心になった殿様の思いに注目させることで、きまりの意義やきまりを守るよさを考えられるようにする。
	・みんなが好き勝手にしないため。 ・「自分も守らなくていいや」って思う。	・みんなが同じようにきまりを守ることが大切。 ・みんなが破ると、きまりがきまりじゃなくなる。	・みんなの生活を支えるため。 ・みんなも破り始めて、気持ちよく生活できない。	【キーワードとなる児童の発言】 「きまりの意味」 「どうしてそのきまりがあるのか」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「きまりにはどんな意味があるの」 「殿様がきまりを守らず、たぎわ門を通っていたら、その後のみんなの様子はどうなっていくだろう」
	きまりを守るときに大切な思いは何だろう			
	・好き勝手に、きまりを変えたりしないで、きまりを守る。	・どんなときでも誰でも、きちんときまりを守ることが大切。	・一人一人がきちんときまりを守ると、みんなが快適に過ごせる。	※めあてに戻ることで、「きまりに対する思い」の広がりや深まりを捉えられるようにする。
6　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返ろう			
	・みんなが気持ちよく生活できるかどうかを考えたい。	・きまりは都合よく変えるものではなく、みんなが気持ちよく生活するためのものだと思った。	・みんなが使うところは、みんなでよりよいものにしようとすることが大切だと思った。	※導入に扱ったアンケートの内容を振り返りながら、きまりの意義について、児童の考えの広がりや深まりがあるかを確かめる。

（4）評　価

・きまりをきちんと守る姿勢がよりよい集団や社会をつくることなどについて考え、約束やきまりを進んで守ろうとする思いを表現しようとしている。（発言・ワークシート）